

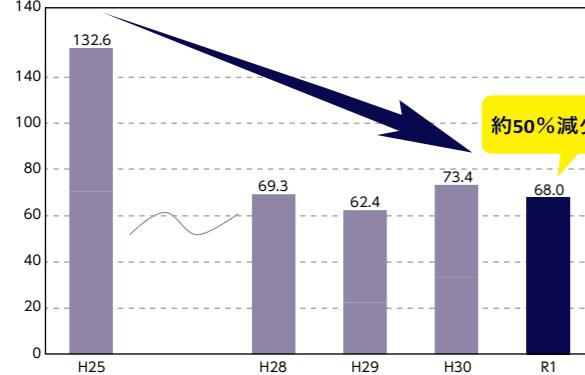
# 未来の相模原のために 行財政構造改革進行中

※令和3～令和9年度の市の歳出超過が約816億円となる見込み（令和2年10月試算）

## [市の貯金がどんどん減っている！]

※市の貯金（財政調整基金）は平成25年度末の133億円をピークに令和元年度末は68億円

【財政調整基金年度末残高の推移】



行財政構造改革を決断！行財政構造改革プランを発表（R3～9年度）

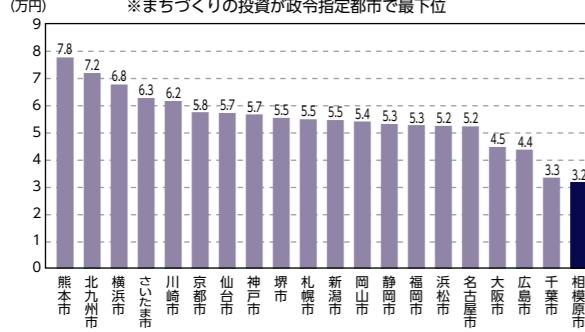
### 歳出削減策

- 1) 新たなまちづくり事業等の選択と集中  
【見直し効果額 1億円】
- 2) 既存の公共施設等の見直し  
【見直し効果額 60.0億円】
- 3) 事務事業の選択と集中  
【見直し効果額 152.4億円】
- 4) 外郭団体の経営改革  
【見直し効果額 0.7億円】

### 歳入確保策

- 1) 市税収入等の確保対策  
【確保目標額 12.7億円】
- 2) 特定財源の積極的な確保  
【確保目標額 20.3億円】
- 3) 地方交付税等の確保  
【確保目標額 56.0億円】
- 4) 民間資金等の活用の検討
- 5) 未利用市有地の売却・有効活用  
【確保目標額 11.0億円】
- 6) 私立保育所等に無償貸付を行っている市有地の有償貸付等の検討
- 7) 更なる財源確保  
【確保目標額 40.6億円】

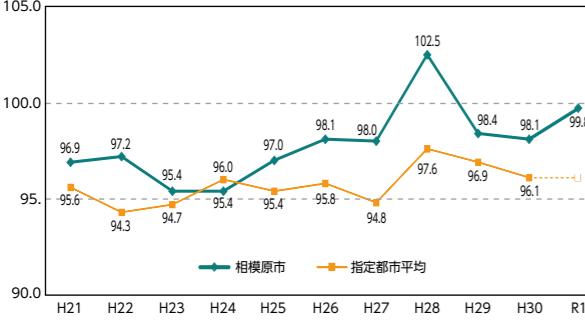
【市民一人当たりの普通建設事業費】



## [新しい事業に使えるお金がほとんどない！]

※収入の99%は決まった支払いや固定的な経費に支出  
(令和元年度経常収支比率)

【経常収支比率の推移】



財政調整基金 年度末残高 120億円以上を目指す

市民一人当たりの 普通建設事業費 6万円台を目指す

経常収支比率 95～96%を目指す

持続可能な相模原市へ財政健全化  
子育て・教育・建設予算の充実へ  
子どもたちが夢を描ける未来を実現するために！

相模原から日本を変える！会

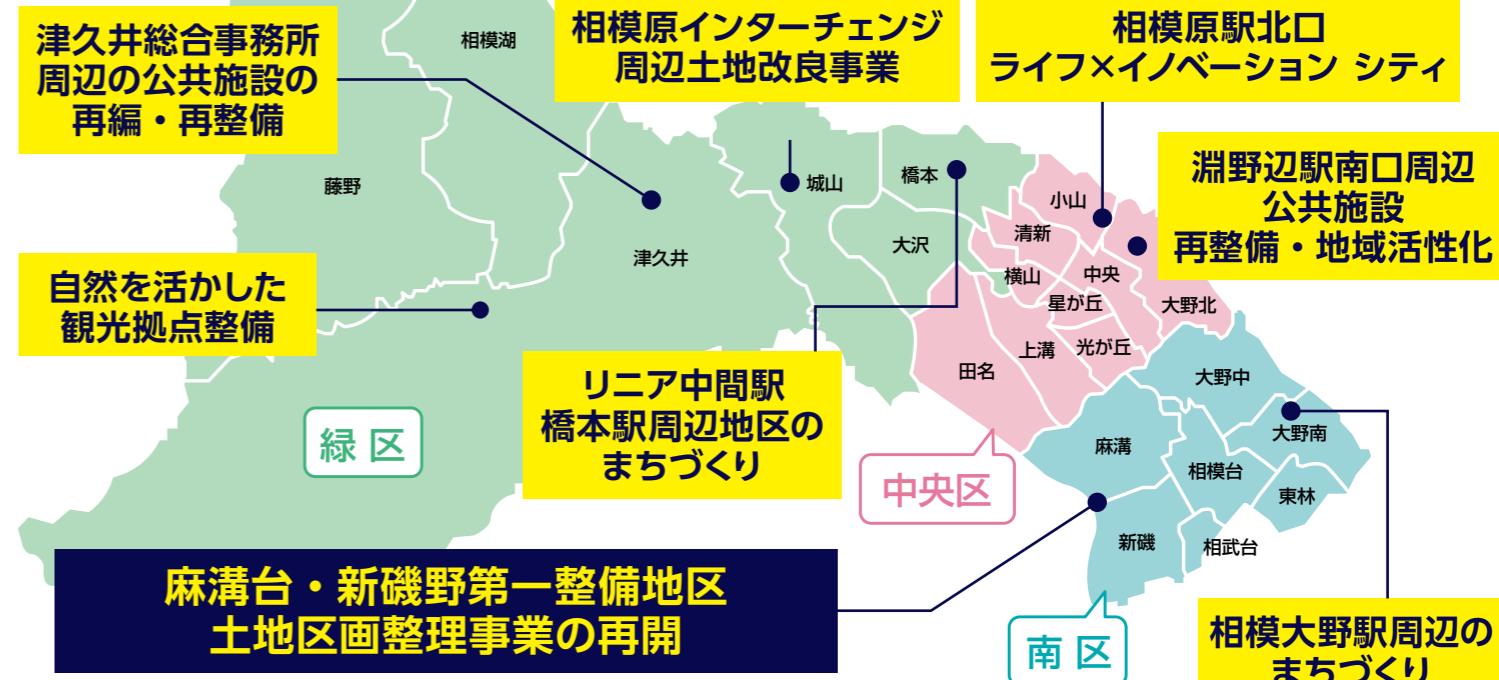
【発行】相模原から日本を変える！会 相模原市南区西大沼 2-52-13 TEL 042-851-6152 FAX 042-851-6162

※掲載内容は、相模原市資料をもとに「相模原から日本を変える！会」が編集したものです。

つくる。  
幸せ色あふれる  
相模原

相模原から  
日本を変える！  
2022年 秋号

# 相模原の未来を拓く！



### ●前市政で進められた事業計画は何が問題だったの？

- ・地中障害物についての検討が不十分でした
- ・基準に基づかない土地の評価を実施していました
- ・資金計画に問題がありました
- ・職員の不適切な行為がありました

### ●なぜ事業を再開したの？

- ・問題や課題を解決できる見通しが立ちました
- ・新たな拠点としてのポテンシャルと効果がある

### ●どんなまちができるの？

#### 第一整備地区 (38ha)

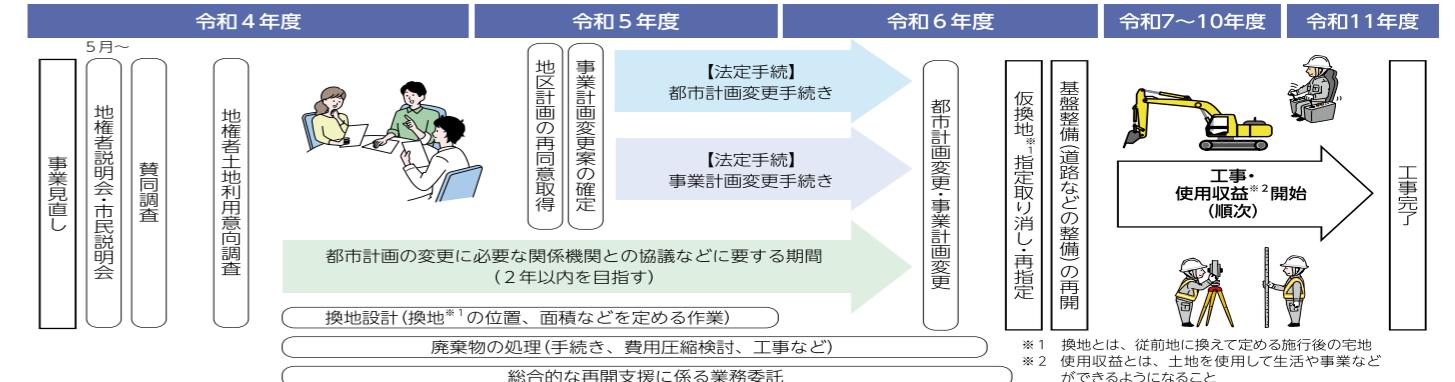
- ・企業を誘致するとともに、にぎわいを創出します
- ・良好な住環境を形成します
- ・環境と共生する都市づくりを進めます

#### 後続地区 (北部地区・南部地区) (110ha)

- ・良好な操業環境の形成を検討します
- ・民間活力による市街地整備を誘導します



主なスケジュール ※調整や協議の進捗状況により、今後変動する可能性があります。



## 相模原駅北口地区土地利用方針

まちづくりコンセプトの策定（令和2年5月）  
多様な交流が新たな価値をうみだす  
ライフ×イノベーションシティ

### 相模原駅北口地区土地利用方針

重要 令和6年度 土地利用計画策定を目指す

#### 将来の社会を見据えたまちづくり

- (1) 人口減少・高齢化の進展
  - ・本市は今後、人口の減少、高齢者人口の増加が予測されています。
- (2) 技術の更なる進展
  - ・AI・ロボット・IoT・ビッグデータの活用、自動運転技術の進展を見据え、イノベティブなまちづくりを進めることができます。
- (3) ニューノーマルに対応した新たなまちづくり
  - ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした新しい生活様式（ニューノーマル）への変化に対応した新たなまちづくりが求められています。
- (4) SDGsの推進
  - ・「持続可能な開発目標（SDGs）」に対して、国や地方自治体において様々な取組が進められ、本市においても積極的な取組を進めています。
- (5) 脱炭素社会に向けたまちづくり
  - ・「さがみはら気候非常事態宣言」の表明など地球温暖化対策の取組を加速化している本市において、先導的な役割を担うまちづくりが求められています。
- (6) 誰もが安全で安心して暮らせるまちづくり
  - ・比較的災害リスクの低い地区であることから、防災機能も併せ持つ安全・安心に配慮したまちづくりが求められています。
  - ・多様な人々が共に支え合う共生社会の実現が求められていることから、あらゆる人々が生き生きと活動していくことに先端技術が貢献するようなインクリューシブなまちづくりを進める必要があります。



※共同使用地区に相模原スポーツ・レクリエーションパーク整備中  
10月1日「ボール遊び場広場」オープン

## 中学校給食 全員喫食へ (学校給食改革本部を創設)

### 重要 選択制デリバリー給食

⇒令和8年度中 全員喫食の開始を目指す

令和3年9~10月頃に実施した中学校給食に係るアンケート（生徒12,925名・保護者9,692・教職員532名）の結果、小学校のような温かい給食を強く望んでいる（8割）など、改善や充実を望む様々な声がありました。

相模原の未来を担う中学生へバランスの取れた食事や食生活の実現、それらを育む食育という教育の一環の中で、生きた教材である学校給食は生徒にとって非常に重要です。中学校給食の全員喫食実現のため、市長及び教育長を本部長とする「学校給食改革本部」を令和4年4月に設置し、市長部局と教育委員会がそれぞれの役割の下で連携して一体的に検討を進めています。



#### ●事業スケジュール

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
実施内容	学校給食あり方検討委員会 (仮称) 学校給食改革本部会議 (月1回開催) 実施方式に係る調査・検討 候補地の検討	中間答申 実施方針※改定案 大規模事業評価	答申(最終) 実施方針※改定 設計/PFI等の募集	想定 (※市有地の場合) R8年中 全員喫食の開始【目標】	施設整備/改修工事		

持続可能なワクワクする相模原へ

## リニア中央新幹線新駅 橋本駅周辺のまちづくり

### 重要 令和4年度 都市計画決定を目指す

令和9年のリニア中央新幹線の開業を見据え、リニアの駅が設置される相模原高校の跡地周辺約16ha（東京ドーム約3.4個）を重点地区としてまちづくりを進めています。

「産業の活力と賑わいがあふれる交流拠点」としての役割を担うため、三大都市圏を結び、鉄道や道路によって首都圏の各方面にアクセスが可能な交通ネットワークを活かし、交流ゲートとしてのまちづくり、また、周辺部の用途との近接性を生かし、産業交流拠点などの機能集積を図っていきます。



#### ●事業スケジュール

	～R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度～
リニア駅工事									駅完成
国道16号以東									
区画整理									
実施内容	広域交流拠点整備計画策定(平成28年)	実現に向けた検討	大規模事業評価	都市計画決定手続き	事業認可手続き	調査設計・工事等	補償調査・用地交渉・工事等	基盤整備完成予定	
国道16号以西									
道路事業									
実施内容									
土地利用									

